非正規・有期労働者の組織化に向けて
労働組合の労働者供給事業の拡充と法制化を！

二〇一三年頭所感

東京地本

執行委員長
宮田政邦

新年明けましておめでとうございます。昨年を振り返りますと、社会保障と税の一体改革を掲げて1月に野田改造内閣が発足し、民自公の合意による消費増税強行。そして密約自爆解散とも言われた衆議院の突然解散から年末選挙で民主党惨敗と自民公明の圧勝という激変に見舞われ、何とも後味の悪い一年となってしまいました。

一昨年の3月11日に千年に一度といわれる東日本大震災と大津波による復興予算支出の点検によって復興支援と全く無縁な支出が発覚したことも野田政権への大きな批判を招いたといえます。

また、福島原発事故の無責任な収束宣言から1年が経過しているなかで、原発事故に伴ない福島の多くの住民の方々が故郷に帰れず家族が離れ離れの生活を強いられている厳しい現実があります。東京地本として微力ながらこれからも支援活動を続けたいと考えています。

国内外の政治情勢はアメリカ大統領にオバマ氏が再選され、中国は習近平総書記に、お隣りの韓国では初の女性の朴槿恵新大統領が誕生しました。そして冒頭に触れたように我が国は民主党政権が3年3ケ月で終止符を打たれ、自民党を中心とする第二次安倍政権の再登場。首都東京においても猪瀬直樹新知事体制が始動しています。

そして労働者を取り巻く情勢は、いまだデフレ不況が続き働く者の賃金労働条件は悪化の一途をたどっています。1990年に870万人だった非正規雇用は1756万人に膨れ上がっています。政治と経済は表裏一体とすれば貧困を生み出したのは結果的に政治の貧困の責任であり雇用の安定なくして経済の発展はのぞむべくもありません。いずれにしても私たちを取り巻く厳しい現状を打破し明日の展望を拓くにはあらためて云うまでもなく労働者供給事業を行う組合として50年以上労使協調のもとで築き上げてきた雇用の安定・賃金・労働条件を維持しつつその向上にむけ本年も取り組んでいく所存です。

東京地本は、タクシー組合員からスタートし、一般トラック、生コン、清掃関連会社との供給契約を広げてきた先輩たちの苦闘の歴史を継承しています。時代が厳しさを増す中、労供労働者としての誇りを持って労供事業の拡充と法制定を目指し当面の諸課題解決に向け組合員一丸となって邁進してまいりますので、本年もご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

関西地本

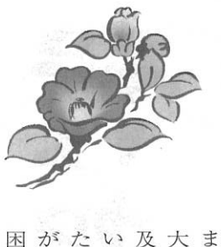
執行委員長
白土武裕

師走におこなわれた衆議院総選挙において民主党は有権者からの圧倒的な不支持を突きつけられ厳しい選挙結果であった。民主党の党内分裂による新党結成が加速し、政党の乱立となり告示直前の他党への乗り換え出馬による立候補者を擁立できない空白選挙区等、有権者をも巻き込んだ選挙であった。政権交代から三年三ヶ月、戦後長く続いた自民政権に対する不満から民主党への期待を受けての政権交代であったが、長期化するデフレ、国際金融不安と円高や株価の低迷による業績悪化からくる製造業の海外への拠点移動で疲弊した国民は民主党が進める改革の進捗に痺れをきたし、一部マスコミ等が煽動する聞こえの良い発言を連発した橋下大阪市長率いる維新の会に多くの期待が集まったのは残念の極みである。

一方、国民の自公政権への期待は円安、株価の続伸となり、デフレ脱却に向け、得意とする公共投資型事業の大幅なバラマキ政策を実施するが景気の浮揚と雇用の増大に直結させられるかが課題である。また、中央道でのトンネル天井板落下事故で問題になったコンクリート構造物の劣化改善や、完成後五十年以上経過した橋やトンネル等の公共構造物の建て替えや補修は重要な交通インフラ事業であり国民の安全・安心確保に向け早急に取り組んで貰いたい。取り分けミッシングリンクの解消へ向けた高規格高速道路の早期着工は渋滞の緩和と通行車輌の分散化により物流の円滑化が促進される。また二四時間運用される関西空港や阪神港の国際拠点化で更なる運輸・流通の需要が見込まれる。いづれにせよ嘗ての政官業の癒着が再燃せぬようしっかりと監視していかなければならない。

さてわれわれの労供事業である。昨年を振り返えれば、生コン出荷量の大幅な低迷で大変厳しい労供情勢であった。本年も厳しい局面が予測されるが、困難克服に向け前進していく。新運転は運転業務を主軸とし労供事業を展開して現在に至っている。過去、幾多の困難を先達の英知で乗り越えてきた歴史があり、我々も、今こそ原点に立ち返った運動を執行部、組合員が一枚岩となって取り組み組織の再生と拡大を進めていかなければならない。

少子高齢化による現役労働者、取り分け職能的免許である大型運転免許所持者の減少は今後の労供に著しい影響を及ぼすであろう。魅力ある業界とし継続して運転労働者が結集できるよう交運労協と連携し運輸業界の回生が急務である。さて韓国、中国のトップが交代し日本の安倍首相の外交手腕が問われるが領土問題を拗らせること無く乗り越えて貰いたい。タカ派安倍政権は改憲を声高に主張するが、改憲すれば全て巧くいく、とは幻想であり不安の逃避に見える。右傾化により焦臭くして景気を煽ろうと言うのは邪道だ。



埼玉地本

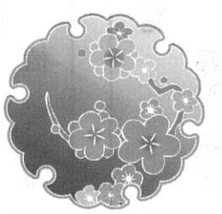
執行委員長
折井洋之

新年明けましておめでとうございます。年末の衆院選挙では民主党の惨敗となり、国民の期待を背負い政権交代を果たした民主党政権が3年3カ月余りで幕を閉じました。振り返りますと、マニフェストになかった消費税増税ばかりが目立ち、当初打ち出していた目玉政策は財源を捻出できないとして、ことごとく頓挫。外交の未熟さ、東日本大震災の復興対策の遅れなど挙げればきりがないのですが、政権運営の拙さが期待を失望へと変え、今回の厳しい結果となったのではないでしょうか。民主党には私たち労働者と協働できる政党として一から出直して頂きたいものです。

さて、日本を取り戻すと謳い政権を取り戻した自民党だが、アベノミクスと称される経済対策を前面に出し、10兆円を超える規模の緊急経済対策も閣議決定された。ここ最近の円安、株高傾向を見ても、一連の強気な経済対策はカンフル剤としては十分なのだろうが、このようなばら撒き政策が本当にデフレ脱却、日本経済の再生につながり、財政の健全化など達成できるのであろうか。安倍首相はこの緊急経済対策によりGDPを2%押し上げ60万人の雇用を生み出すと豪語していたが、短期的に景気を押し上げることで国民に好印象を与え、この夏の参院選勝利を狙った人気取り政策としか思えないのは自分ばかりではないだろう。山積した課題に対してどう現政権が舵を取っていくのか今後注視していかなければならないだろうが、私たち労働者が苦しめられた過去の自公政権とならぬよう願うばかりである。

最後に埼玉地本の労供概況だが、昨年はリーマンショック以来最高の供給実績となり今年も年初より好調な状態が続いている。現在も供給しきれない日が出るなど新規組合員の確保が喫緊の課題となっているが、残念な事に供給の増加とともに事故件数も増加の傾向にある。重大事故には繋がってはいないことは幸いであるが、やはり事故を起こさないということがプロドライバーとしての使命であり、私たちの労供事業の発展はないものと考える。

組織拡大、組合員の安全意識の向上を重点課題として、組合員、執行部一丸となり埼玉地本の発展に向け頑張って参る所存でありますので、本年もご指導ご鞭撻のほどお願い致しまして、新年の挨拶とします。



滋賀地本

執行委員長代行
楠　真一郎

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様、そしてご家族の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より当労組の諸活動に対し、ご理解とご協力を賜りますことを厚く感謝申し上げます。昨年に、前委員長が一身上の都合により任期半ばで退任され、私が委員長代行として大役を引き継ぐこととなり年が明け、改めて重責に身が引き締まる思いです。

昨年末の総選挙において、私達が支持し応援してまいりました「民主党」は大敗を喫し、3年3か月に及んだ政権与党から陥落という厳しい結果となりました。この三年、私たち国民が民主党に一番期待した「貧困対策」や「若年層の雇用」については、労働契約法など一定の改善に向け踏み込んだものの抜本的な対策には至らず、そうした事への失望感も否めません。また、経済連携協定（TPP）への対応や高い法人税率、さらには資源・エネルギーの供給問題など、多くの課題を抱え、出口の見えないデフレスパイラルが続く中で、景気対策や社会保障、原発・エネルギー政策、震災復興、また昨年12月に起きた中央トンネル崩落事故を皮切りにインフラ整備と待ったなしの課題が山積しています。

自民党の復活、安倍政権の発足とともに、昨年暮れから日経平均は上昇基調にありますが、円安傾向や公共投資を軸とした従来型の産業振興策に、長引くデフレ不況からの脱却を期待する流れとなっています。

しかし、日本の財政赤字は膨らんでおり、極端なインフレの到来は国債の格付けを損なう恐れもあり、また消費税率の引き上げは中小企業や低所得者層へ一層の負担を強いることになりかねません。これらの難題をどこまで解消できるか、我々が一票を投じた各政治家の方々に期待したいところであります。

さて、滋賀地本ですが、長期に渡り異業種に取り組み、一般貨物、競馬輸送、事務職など就労先確保に一定の成果はあるのですが、何と言っても主軸となる生コンが低迷し就労確保が非常に厳しい現状です。このような現状を抜け出すには、やはり、生コンに執着せず違う職種に参入し組織化を図らなければならないと考えます。単純な事なのですが、あらゆる可能性をチャンスと受け止め、私たちが「出来ないか?」、「入り込めないか?」と考え行動に移す機動力が1雇用、1事業所に繋がっていくと思います。滋賀地本執行部は各地本より歴史は浅く、知識や経験は浅いですが、今、滋賀で「ある事」、「出来る事」を敏感に見据え執行部一丸となり、今年一年頑張っていきます。

今年は巳年でもあります。蛇は、脱皮するその姿がこれまでの古い考え方から抜け出して一段と進歩することに例えられ、その生命力から不死と再生の象徴とされてきたようです。

組合員一人ひとりが勇気を出し、話し合いのもとで行動をおこし、組織内外から魅力や憧れを持っていただけるような職場や組織づくり、そして、新しい取り組みにも挑戦をしていきたいと思います。諸先輩方々の築いた歴史に学びつつ、時代の変化に即応した運動を推進し役員一同、最大限の努力を続けてまいります。中央本部、各地本の滋賀地本に対するご指導ご鞭撻を宜しくお願いします。